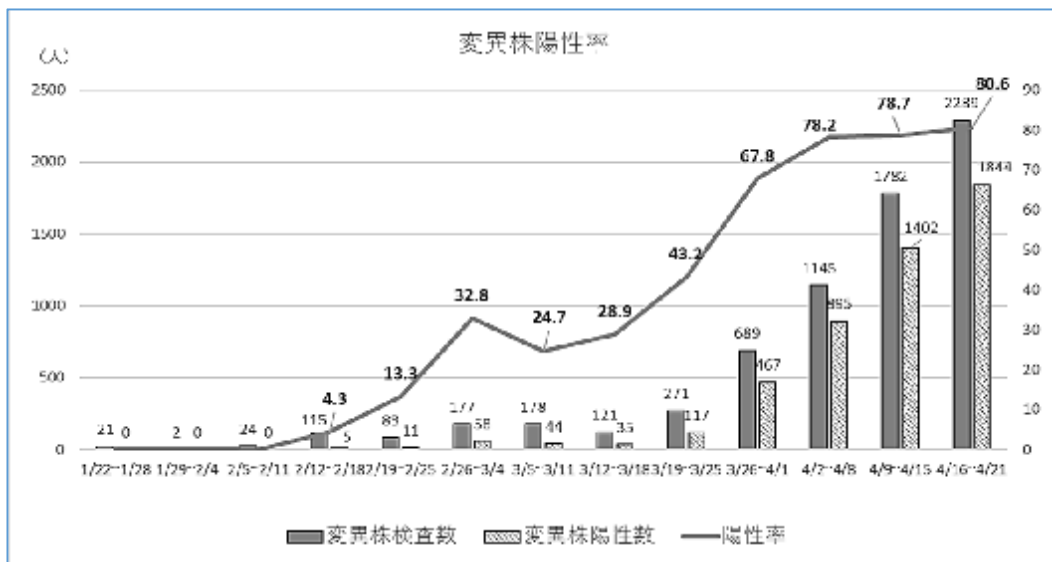
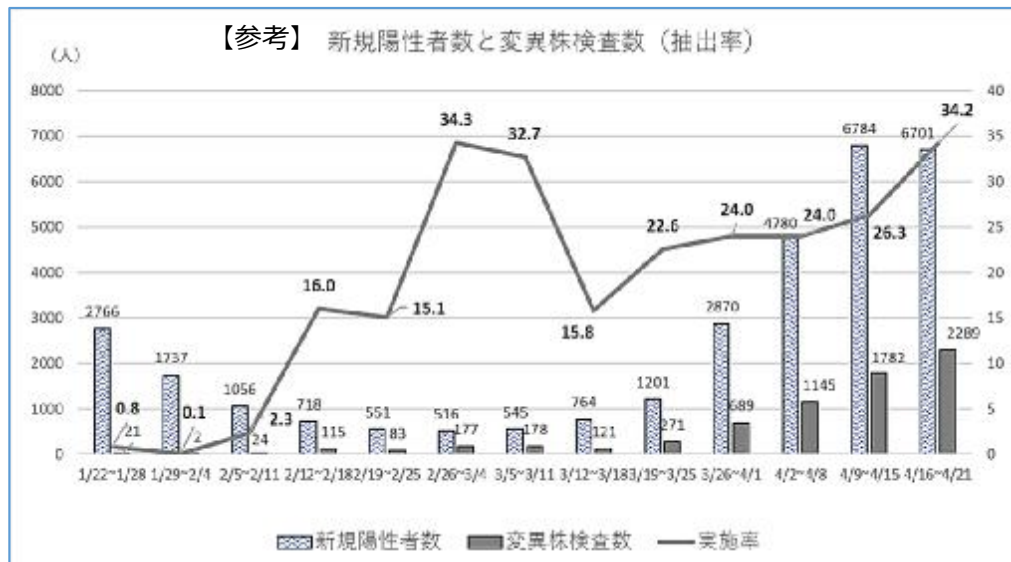


## 【4】 変異株スクリーニング検査

### 変異株スクリーニング検査陽性率の推移



※大阪府が民間検査機関等に委託している検査のほか、厚生労働省が民間検査機関と契約し実施した件数も含む。



### 考察

- 変異株スクリーニング検査における陽性率（変異株陽性率）は、4月以降は80%程度で推移。  
⇒大阪府では、ほぼ変異株（N501Y）に置き換わっていると判断でき、変異株スクリーニング検査を継続すべきかは懐疑的。  
（4月20日新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードでも、大阪ではすでに変異株への置き換わりが進んでいると明示。）
- 陽性者が多くなるに伴い、スクリーニング実施件数が増えるため、通常の検査結果に遅れが生じる等の影響を及ぼしている。  
⇒感染者が多い局面においては、新規陽性者の探知の検査に検査能力を注力すべき。
- 厚生労働省が直接契約している民間検査機関において、新規陽性者の約15%にスクリーニング検査を実施できている。現在の府の変異株陽性率の高さからすると、これ以上抽出率を上げる意味はなく、検査資源を通常の検査に回すのが賢明。
- 以上より、変異株陽性率が継続して減少しない限り、**大阪府における変異株スクリーニング検査は地方衛生研究所など一部に限定して実施する。**

また、厚生労働省が実施する変異株スクリーニングによって、府内の発生状況をモニタリングしながら、**新規変異株の発生時には即座に対応出来るよう、スクリーニング体制の確保は継続。また、地方衛生研究所・大学においてゲノム解析の実施を検討。**